

## 大会宣言（案）

私たちは、本日、第21回定期大会を開催し、党員の活発な討論により、この1年間の活動を総括し、新たな運動の方針を決定しました。本大会の討論をとおして、労働者や国民のくらしはますます悪化し、平和憲法が危機的状況におかれていることが明らかになりました。

昨年10月22日に行われた第48回衆議院総選挙は、安倍自民党の圧勝を許し、安倍首相は一月通常国会の施政方針演説で、「憲法改正論議の促進」「防衛力強化」「働き方改革」を最重要課題として表明しました。今日の政治の最大課題は「憲法」です。先の総選挙で改憲勢力は3分の2以上を確保することとなりました。まさに平和憲法の危機です。安倍政権の平和を脅かす改憲攻撃に対し、私たちは野党、労働組合、市民の力を結集させて闘わなければなりません。「安倍9条改憲NO！3000万署名」成功させましょう。

また、安倍9条改憲策動と密接に関係しているのが「辺野古新基地建設」です。2月4日、名護市長選は、この8年間辺野古新基地阻止を貫くとともに、米軍再編交付金に頼らない市民の叡知と自治の力による市政を進めてきた稲嶺氏が敗れる結果となりました。稲嶺市政に対峙したのは、安倍政権そのものでした。工事を強行し既成事実を積み上げ、後戻りできないことを印象づけ、あきらめさせる。国策の前に抵抗は無意味だと、あらゆる手を使っての介入が、人口6万の一地方都市の懸命の努力を踏みつぶしていったのです。そして、何より自覚が求められるのは、辺野古新基地建設の強行を許してしまっている、本土側の運動の弱さと「黙認」する民意です。私たちはもう一度沖縄に寄り添い、沖縄との連帯を結び直す運動を足元から構築していきましょう。

福島第一原発事故から丸7年が経過していますが、今なお「原発事故は継続中」（原子力規制委員会）です。「原発ゼロ」に向けてさらに運動を強め広げていきましょう。脱原発デモ「甲府でもやるじゃん」は間もなく300回を迎えます。全党員が脱原発運動に積極的にかかわっていきます。

18春闘の最大課題と言われているのが、今国会で審議中の「働き方改革一括法案」です。この法案は、経営側の利潤追求をそのまま受け入れたものであり、過労死ラインを超えて働かせようとするものです。同法案の「裁量労働制の対象拡大」については、裁量労働制をめぐる労働時間の不適切データ問題による混乱のため、法案から全面削除させることができました。しかし、残された法案は「残業代ゼロ法案」はじめ、働く人のための改革とはかけ離れたものであり、断固として阻止しなければなりません。

この他、私たち新社会党の取り組むべき当面の課題は山積していますが、党勢拡大に努め、運動の強化をはかり、国民に期待される政党に躍進することをめざしていきます。

本日の第21回定期大会で議論され決定された活動方針を、党綱領の指し示す路線に沿って全党員が全力で取り組みましょう。そして、その闘いの成果が搾取と階級対立のない新しい社会の実現につながることに自信と確信を持ち、一致団結して闘い抜くことをここに宣言します。

2018年3月22日

新社会党山梨県本部 第21回定期大会